

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
疾病治療論 I	NSF12_006	必修	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
榎本 温 他	407	satoshi.kashimoto	授業終了後に質問等受付		
授業の目的・概要	疾病治療論 I では、循環器、呼吸器などの疾患の症状、診断に必要な検査及び治療、予後について学ぶ。疾病治療論 I で学んだ疾病治療論総論および病理学・感染免疫学・栄養代謝学・薬理学で学んだ知識などを活用し、症状や検査、治療が人体や生活に及ぼす影響について理解する。また、臨床で経験する頻度の高い疾患を中心に、現在行われている診断治療について学ぶ。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	人体機能構造学と病理学の教科書で予習を行うこと。人体機能構造学と病理学で学習した内容が疾病治療論に繋がっていることを認識し、同様に今学んでいる疾病治療論で学習した知識がこれから学習する看護学専門分野を学習する上で必要になることを認識して学習すること。				
教科書	・専門分野(2)成人看護学<3> 第16版 循環器(系統看護学講座)/医学書院 ・専門分野(2)成人看護学<2> 第16版 呼吸器(系統看護学講座)/医学書院 ・臨床外科看護総論(別巻) 第12版 (系統看護学講座)/医学書院 [3冊指定]				
参考書	・ハリソン内科学 第5版/日本語版監修:福井次矢、黒田清/メディカル・サイエンス・インターナショナル/2017				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	臨床的な重要な疾患についての基礎的な知識と考え方を習得できる。		HSU(1)(2)、NS(1)(5)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	呼吸器(1) 解剖・生理 (担当: 榎本)	講義	教科書の該当部分の予習、講義内容を復習する。	1	
2	呼吸器(2) 症状と病態生理 (担当: 榎本)	講義	教科書の該当部分の予習、講義内容を復習する。	1	
3	臨床外科総論(1)	講義	教科書の該当部分の予習、講義内容を復習する。	1	
4	臨床外科総論(2)	講義	教科書の該当部分の予習、講義内容を復習する。	1	
5	漢方医学の基礎 (担当: 菅原)	講義	教科書の該当部分の予習、講義内容を復習する。	1	
6	循環器(1) 解剖・生理 (担当: 保坂)	講義	教科書の該当部分の予習、講義内容を復習する。	1	
7	循環器(2) 症状と病態生理	講義	教科書の該当部分の予習、講義内容を復習する。	1	
8	循環器(3) 検査・治療・疾患の理解	講義	教科書の該当部分の予習、講義内容を復習する。	1	
試	達成度評価・評価のポイントを参照				

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

		達成度評価					
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合力指標	知識・技術力	100	0	0	0	0	100
	思考・推論・創造する力	80	0	0	0	0	80
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
問題を発見・解決する力		0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点					
試験	①	✓	定期試験は講義全体について実施する。				試験問題について講義の内容を踏まえて解説する。必要に応じフィードバックの時間をしっかり確保する。
	②						
レポート	①						
	②						
成果発表	①						
	②						
ポートフォリオ	①						
	②						
その他	①						
	②						
備 考							
他担当教員	保坂稔、菅原健 連絡調整を行う看護教員: 窪川理英						
教員の実務経験	科目責任者は、山梨大学麻酔科医として 28 年間、公立病院の院長として 9 年間、看護専門学校の校長職を 4 年間行っている。						
実践的授業の内容	実践的授業の内容: 現場での体験をまじえた講義を行う。						
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当科目は複数の教員が単元ごとに授業を担当するオムニバス形式となっている。</li> <li>・科目担当者は医師免許を持った教員である。</li> <li>・社会情勢によって、シラバスは再度変更される可能性がある。</li> </ul>						